

松本CINEMAセレクト

* 月刊シネマガイド No.26

● 3月の上映作品

どこに行くの? / ジャーマン+雨 / プライド in ブルー

追悼 黒木和雄監督 初期傑作選

竜馬暗殺 / とべない沈黙 / 祭りの準備

岩波映画時代のPR映画

 **3**月号
2008 March



松本 エンギザ での上映について

上映時間: レイトショー 21:00~

メンバーズ: 1,200円(学生1,000円) 前売券: 1,400円 メール予約: 1,500円 当日券: 1,800円(学生1,400円)

※松本 エンギザでは、メンバーズ割引、駐車場割引、高校生3人割引、障害者手帳割引があります。詳しくは当日受付にてお尋ねください。 ※松本 エンギザ 電話 0263-32-0396

上映会に関するすべてのお問い合わせは、松本シネマセレクト(Tel. 0263-98-4928)へ

東京3月1日公開に続き「松本」で上映! 3月19日(水) 19:30~

どこに行くの? まつもと市民芸術館 小ホール

2007年/100分/日本/カラー/HDD 監督・脚本: 松井良彦
出演: 柏原収史/あんず/朱源実/村松恭子/三浦誠己/長澤奈央/佐野和宏



セレクトは『追悼のざわめき』を忘れさせない
世界が拒絶した“初恋”、異形のラブ・ストーリー

日本映画界のタブー『追悼のざわめき』から22年、あの松井良彦が遂に沈黙を破った! 待望の新作は、性的トラウマを抱えホモセクシュアルになった青年とニューハーフとの究極の“初恋”物語。剥き出しの激情を曝す無鉄砲さは、邦画バブルのぬるま湯でふやけつつある我々の魂につかみかかり、その泥くさいまでの真摯さは、観る者に一生涯消えないしこりを残す。そして何より恐ろしいのは、この衝撃作を松井自身は、「非常にかわいらしい青春ラブ・ストーリー」と語っていることだ! 覚悟無き者、観るべからず。



ジャーマン+雨 3月28日(金) ①19:00~②20:30~
まつもと市民芸術館 小ホール

2006年/71分/日本/カラー/DVCAM 監督・脚本: 横浜聡子
出演: 野暮好美/藤岡涼音/ベーター・ハイマン/ひさうちみちお(特別出演) ほか

よしこは歌う。「トラウマなんてくそくらえ!!」
閉塞した日本映画に、たて笛ひとつで殴り込みだ!!

不細工、強引、天涯孤独の植木職人見習い、よしこ。16歳。“ゴリラマン”と罵られ、棟梁には殴られるけど、どっこいよしこは今日も叫ぶ。「アリンコども散れ!」そんな彼女の夢は歌手。たて笛で作る曲ネタは、まわりの人間たちのトラウマだ! よしこはあらゆる欺瞞を突き飛ばし、世界に、そしてあなたに触れんと、あたたかい手を伸ばす。山下敦弘監督も絶賛、ありそうでなかった“内向しない日本映画”。必見です!

2007年度文化庁映画賞 優秀賞 3月30日(日) ①10:00~②13:00~
プライド in ブルー Mウイング 6階ホール

2007年/84分/日本/カラー/DVCAM 監督: 中村和彦 ナレーション: 寺田農

熱き男たちのプライドは、“障害”という壁を突破する
その目に焼き付けてほしい、「もうひとつのW杯」

06年8月、サッカーワールドカップの熱狂冷めやらぬドイツで開催された、INAS-FID(国際知的障害者スポーツ連盟)サッカー世界選手権。合計16カ国が参加したこの大会に、サムライブルーをまとった日本代表選手たちも遠征した。この映画は、彼らのドイツ大会の熱戦のみならず、試合前の準備、応援する家族や周囲の姿、そして帰国後の「その後の生活」を10カ月にわたって刻銘に記録した、これまでにない本格的なサッカー・ドキュメンタリーである。「日本の国旗を背負って世界に挑む、もう一つの代表チームを僕は応援します」(中村俊輔)



©パイオタイト+バンドラ

追悼 黒木和雄監督 初期傑作選

松本CINEMAセレクトでは、2006年4月12日に逝去した黒木和雄監督の追悼上映を行います。今回は殆ど観る機会が無い黒木監督初期の傑作をお届けします。

前売…1,400円 当日…一般1,500円/学生1,400円/メンバー1,000円

黒木和雄…1930年三重県松坂市生まれ。1954年より岩波映画製作所演出部で助監督を務め、1957年監督デビュー。『わが愛北海道』(1962)などを発表し、1962年にフリーに。1965年に『とべない沈黙』で劇映画デビュー。1970年代のATGを代表する監督のひとりとして『竜馬暗殺』(1974)、『祭りの準備』(1975)などで高い評価を受ける。近年は『TOMORROW/明日』(1988年)、『美しい夏キリシマ』(2002年)、『父と暮せば』(2004年)と戦争レクイエム3部作を作り評価を得た。2006年4月12日逝去。

★★ 旧作の為、画像、音声必ずしも良好でない場合があります。あらかじめご了承下さい。★★

竜馬暗殺 3月1日(土) 21:00~ エンギザ

1974年劇場公開/製作:映画同人社=ATG/118分/白黒/35mm
監督:黒木和雄 脚本:清水邦夫、田辺泰志
企画制作:葛井欣士郎、黒田征太郎、富田幹雄 撮影:田村正毅
出演:原田芳雄、石橋蓮司、中川梨絵、松田優作、桃井かおり



幕末という動乱期を背景に、坂本竜馬が暗殺されるまでの最後の2日間を描いた時代劇。単なる時代劇にせず当時70年代の世相を反映し、事件の真相は討幕派内の「内ゲバ」という仮説のもとに描いた。若き日の出演者たちが圧倒的な演技をする。モノクロ・スタンダードで撮影された生々しさは、スクリーンでしか再現できない。

高校生の時に出会った信大生に「僕は学生鞆に『竜馬暗殺』のパンフレットの原田芳雄のアップを貼り付けて高校に通った」と聞かされた。東京の私のアパートには煙草で黄色くなった映画のポスターがずっと張ってあった。(松本CINEMAセレクト理事長・宮善文)

とべない沈黙 3月14日(金) 21:00~ エンギザ

1966年劇場公開/制作:日本映画新社/100分/白黒/35mm
監督・脚本・編集:黒木和雄 脚本:松川八洲雄、岩佐寿弥 撮影:鈴木達夫
音楽:松村禎三 助監督:東陽一 スチール:森山大道
出演:加賀まりこ、長門裕之、蛭川幸雄、渡辺文夫、木村俊恵



一人の少年が北海道に生息するはずのないナガサキアゲハ蝶を捕まえる。しかし常識はその事実を否定する。秀逸な映像と観念的なストーリー展開のもと、ナガサキアゲハの幼虫が運命の糸に操られるように日本列島を南から縦断していく……。

高校生の頃、Sさんからどんなにこの映画が凄いか何度となく聞かされ、やっと大学生時代に東京で観賞。松本に戻り84年頃、今は無き東京の名画座「大井武蔵野館」で久しぶりに上映されるので観に行くと、今度は私がこの作品について熱く語った信大生と場内で遭遇した。(宮崎)



祭りの準備 3月15日(土) 21:00~ エンギザ

1975年劇場公開/制作:綜映社=映画同人社=ATG/117分/カラー/35mm
監督:黒木和雄 原作・脚本:中島丈博 撮影:鈴木達夫 美術:木村威夫
出演:江藤潤、竹下景子、桂木梨江、杉本美樹、馬淵清子

現在、脚本家・映画監督として活躍する中島丈博の自伝的なシナリオの映画化。昭和30年代の高知県中村を舞台に、猥雑な隣人たちに囲まれて暮らす青年が、すべてのしがらみを断ち切って上京するまでを描く。70年代青春映画の金字塔である。90年代「お宝映像ブーム」の時には、この作品中の竹下景子が雑誌を賑わした。ラストの「バンザイ」は数年後、同じ中島丈博脚本の傑作『突然、嵐のように』(監督:山根成之 郷ひろみ・秋吉久美子)でも再現される。(宮崎)

岩波PR映画 3月22日(土) Mウィング6階ホール 入替なし (Aプロ・対談・Bプロ1チケットでご覧いただけます)

Aプログラム 13:00~14:50

海壁

1959年/59分/カラー/16mm

東京電力横須賀火力発電所の建設記録。日本初のカラー・ワイドスクリーンによるドキュメンタリー。「PR映画に初めて作家の情念がこもった」と言わしめた作品。

ルポルタージュ炎

1960年/37分/カラー/16mm

「海壁」の続編。テーマが水から火へと変わり発電所本体の建設の記録。様々な前衛的手法を駆使し、黒木監督が言う「自分の呼吸、息使いに忠実に」作られた一編。

ゲスト対談 14:50~15:30

黒木監督ゆかりのゲストをお迎えしてトークショーを行います。

== ゲスト ==

岩波映画出身
岩佐寿弥監督・後藤一郎監督

Bプログラム 15:40~17:20

日本発見シリーズ 群馬県

1962年/30分/白黒/16mm

黒木監督初のテレビ作品。県別で日本の現状を紹介するシリーズの一作で鈴木達夫カメラマンとの初仕事。しかし、会社の判断で放映されずオクラ入りとなった幻の一編。

恋の羊が海いっぱい

1961年/20分/カラー/16mm

ミュージカル映画風に作られた異色作。スタッフ、キャストも豪華で異色。羽田澄子、朝倉摂、森英恵、寺山修司、山本直純、ペギー葉山、久里千春等。東南アジアでヒットした。

わが愛北海道

1962年/49分/カラー/16mm

北海道を肯定的に紹介するという要請に対し、黒木は主人公を作り、出会った女性への想いを北海道に重ね合わせ、自然と人々の暮らし、産業巡礼の旅を交差させ描いた作品。